

# 宍道湖・中海水産振興対策検討調査事業 藻場造成手法検討調査（人工基質着生試験）

中村幹雄・山根恭道・重本欣史

藻場は水産生物の餌場や保育場として重要であることが明らかになっており、また水中の栄養塩を吸収し酸素を供給するという環境浄化の働きも大きいと考えられる。中海ではかつては藻場が多く存在し、オゴノリなどの生産も盛んであったが、現在では埋め立てや護岸造成などにより藻場の多くは減少あるいは消滅してしまった。そこで、中海において、藻場を復元することを目的とした藻場造成手法を検討する。

本調査では、中海に人工基質を設置し、海藻類の造成を試みることにより、「豊かな環境」「豊かな漁場」を復元していく方法を探るとともに、藻場造成による様々な効果を検討する。

本事業の追跡調査は（株）ミクニアにお願いし、データが蓄積された後に、まとめて報告書を作成する。

## 調 査 方 法

### 1. 人工基質の設置

人工基質は、1997年12月4日に、図1に示す中海の中央部に位置する大根島南部沿岸の、水深約4mの海藻類の生育の乏しい泥底に設置された。人工基質として、図2(1)、(2)に示す、コンクリートブロックと、樹脂ネットに詰めたカキ殻からなるブロックの2種類を設置した。

### 2. 調査概要

調査は、設置した人工基質による水産的效果を把握するために、以下の項目について実施しており、現在も継続中である。

事前調査（1997年11月）

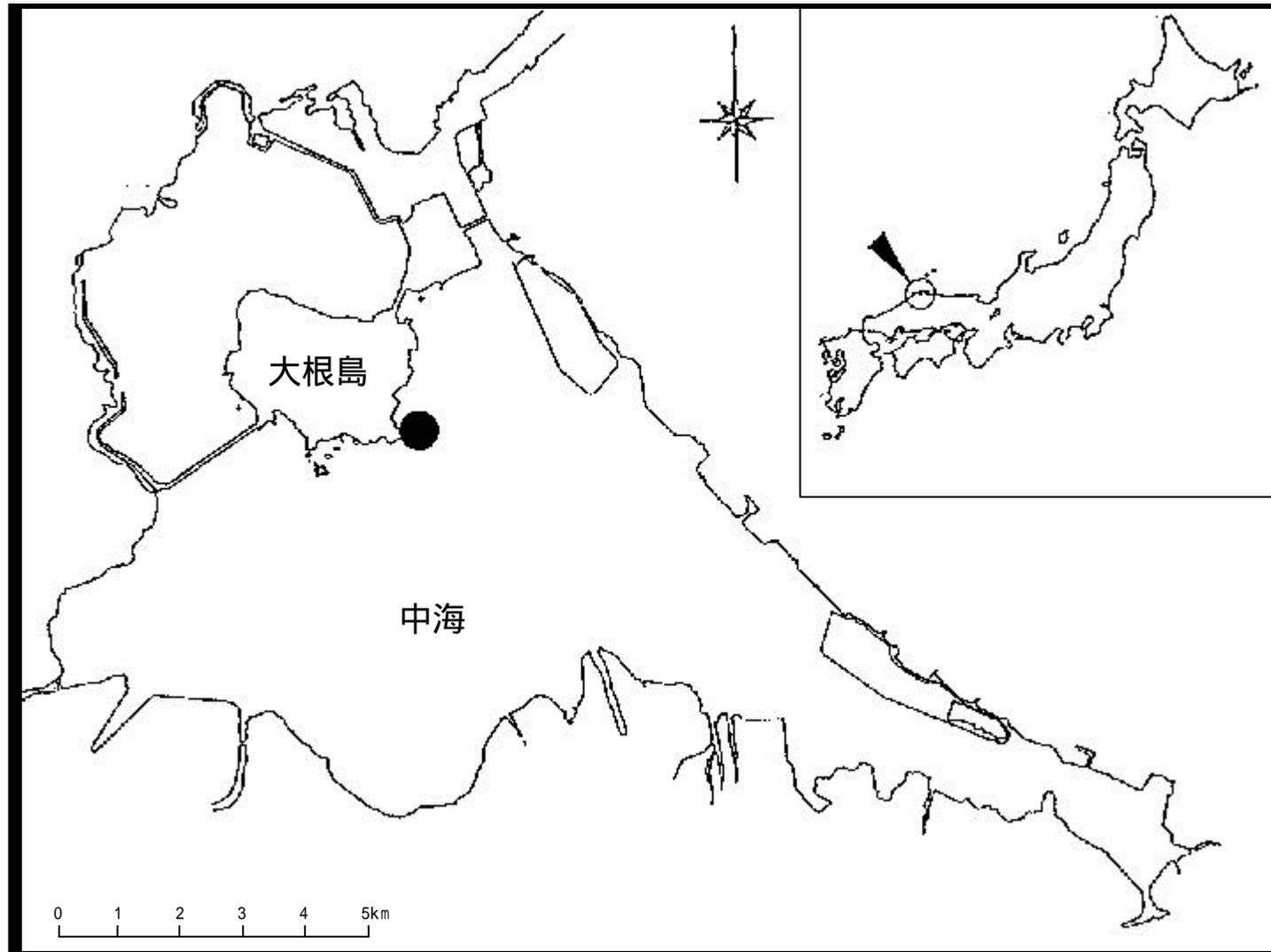
- ・人工基質設置場所周辺の生物相の把握

現地調査（1997年12月以降毎月）

- ・人工基質場の生物相の経年変化（目視観察）
- ・人工基質場の生物の現存量（坪狩り）
- ・人工基質の周辺環境把握（水温、塩分、溶存酸素量、pH、透明度、水中照度）

## 結 果 と 考 察

調査結果は別途報告書により報告する。今回は調査結果の概要についてのみ記す。



# 藻礁ウェーブ

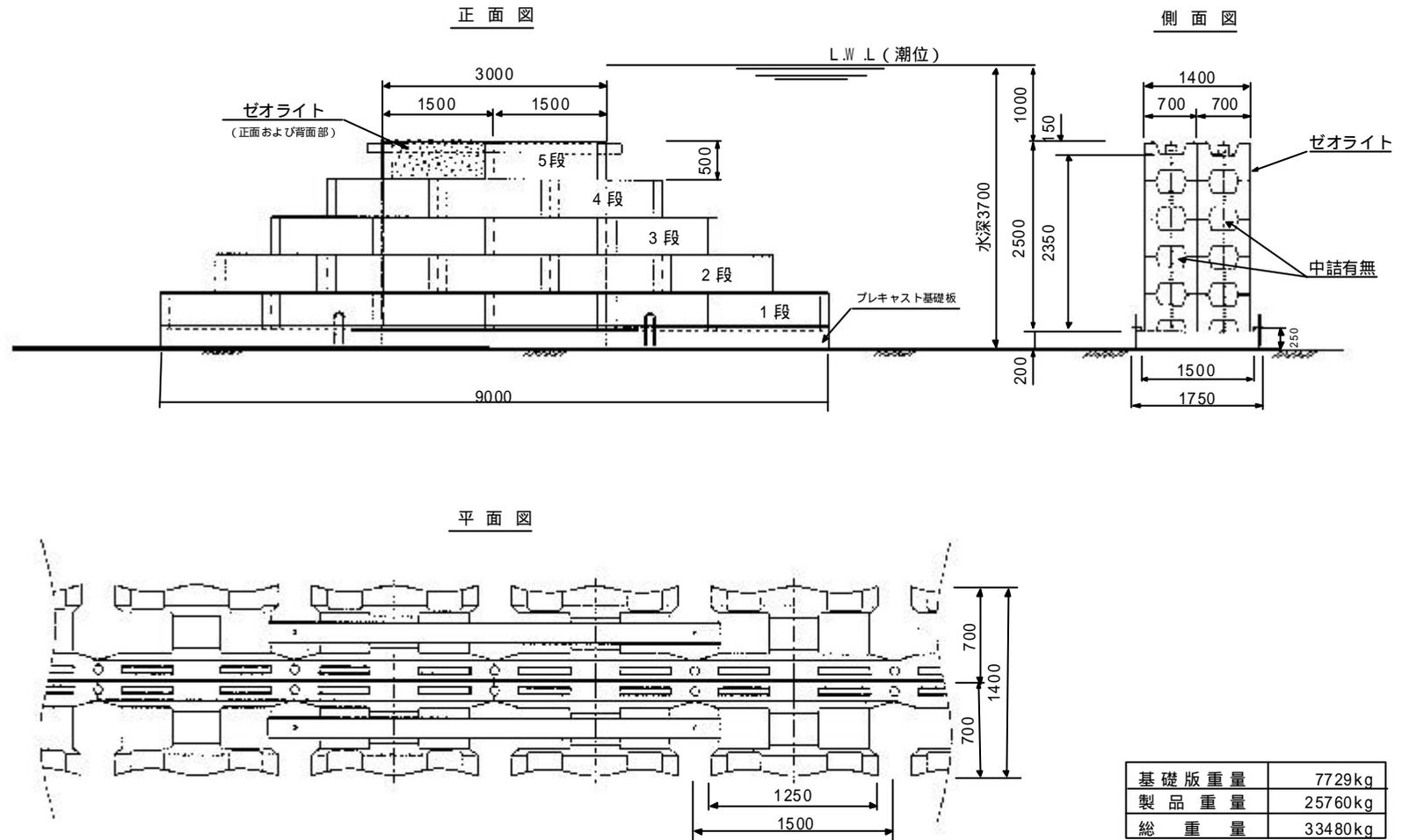


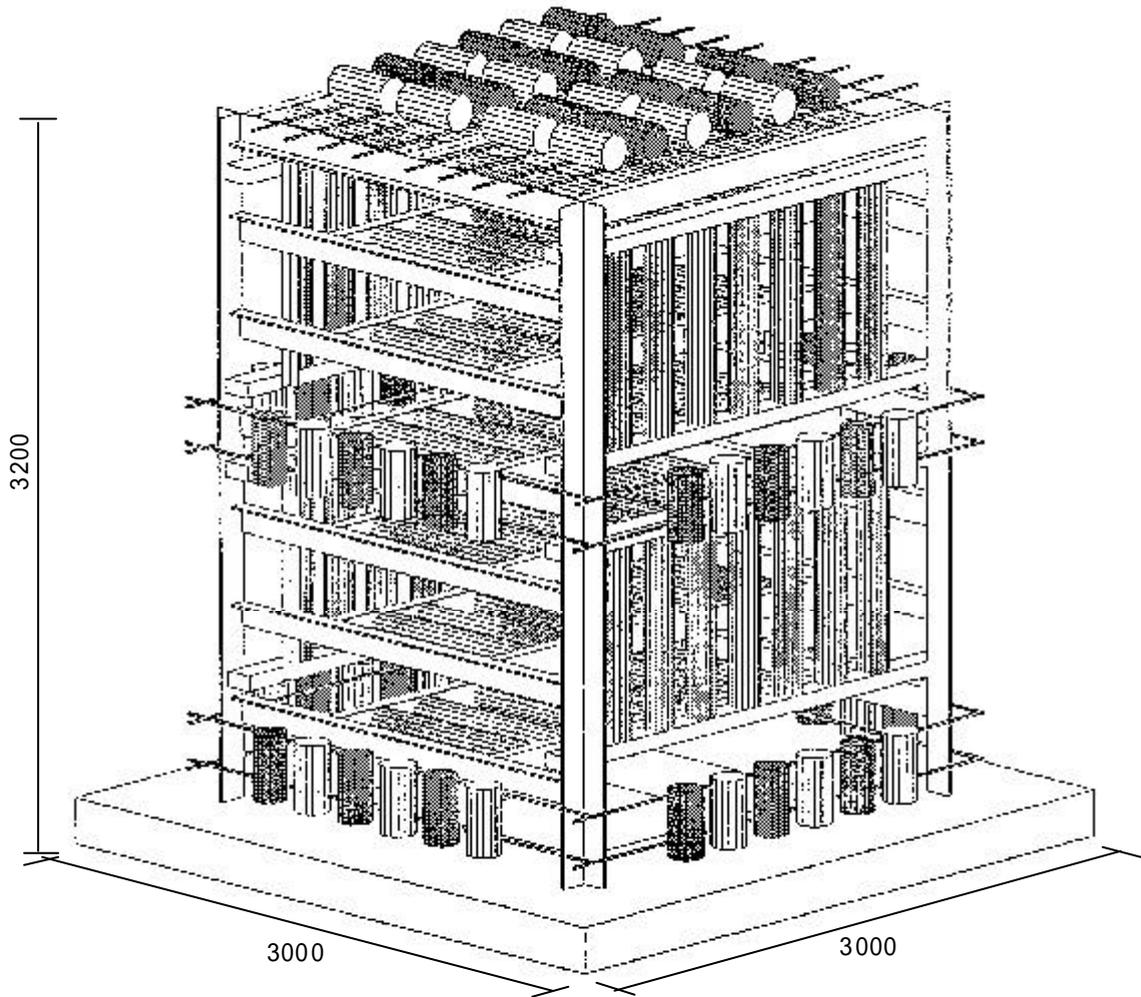
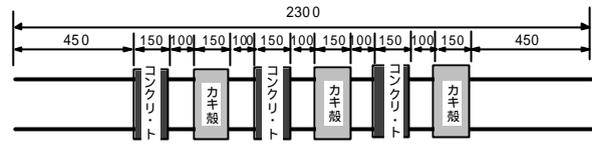
図2-1 . 人工基質 (コンクリートブロック)



# シェルナース3.2型

テストピース取付

テストピース組立図



## 取付テストピース数

カキ殻テストピース	36個	コンクリートテストピース	36個
-----------	-----	--------------	-----

図2-2人工基質（カキ殻ブロック）